

調査報告書

- 1 とき：2014年5月27日
 - 2 行先：豊川市内、豊川市役所
 - 3 参加者：山口清明、政務活動補助員（浜田）
 - 4 主な内容
- ・ 豊川市の佐藤・安間両市議の案内で、豊川市の市街地の真ん中にある陸上自衛隊豊川駐屯地及びその周辺を視察調査した。
 - ・ 豊川海軍工廠跡地の一角にできた陸上自衛隊豊川駐屯地。約1700名が勤務している。敷地内には155mりゅう弾砲などがずらりと並び、訓練中の隊員の姿が垣間見えた。また駐屯地横の広場は演習場となっており訓練用の人型の的があった。最寄りの演習場は市内（旧一ノ宮町）の日吉原演習場。そこへの往復をはじめ市内外での行軍訓練が行われており、昨年は豊川市役所に報告があったものだけで30回にも。迷彩服で銃を持った集団が登校時間帯の通学路や昼休みの公園に現れる。市営体育館も定期的に借りて訓練に使用しているようだ。
 - ・ 中学生の職場体験学習（中2 二日間）でも自衛隊訪問がここ10年で増えてきた。市内10校で2013年78人（うち女子6人）、12年59人、11年61人。10年47人、09年33人、年々増加傾向。駐屯地そばの金屋中が15名で最多だが市内10校すべてから参加がある。入隊希望者が増えているとのこと。教育委員会からは・武器を持たずこと、戦車などに乗せることの二つはやめてくれ、と言っているとのこと。実際は 資料館見学（中身は不明）、ロープワーク、震災救援活動の話などがメニューという。
 - ・ 平成10年頃から隊員は通勤時も迷彩服を、と指示があったようで保育園の送迎も迷彩服のまま。いつでも戦闘状態に入れるように、とのことだそうである。祭りなどの行事前には空砲がよくなり音と振動にびっくりする。イラクには150名ほどが派兵された。富士などに演習に行くときは装備や弾薬も移動する。自衛隊協力会の会長は市長。成人式には制服で出席。退職者が青パトや地域の警備などにボラとして参加するなどして地域に影響力を広げている。市街地の発展にとって迷惑な位置にある。
 - ・ 海軍工廠への空爆で多くの犠牲者を出した市として、平和行政にも一定の力を注いでいる。その体験があり、単純な自衛隊の城下町化を防ぐ力になっているのかも。